

第1回徳島小松島港港湾脱炭素化推進協議会 議事概要

日 時 : 令和5年9月19日(火) 10:00~11:00
場 所 : ホテル千秋閣 7階 鳳の間
開催形式 : 対面形式

【議事概要】

(議事2-1: 徳島小松島港カーボンニュートラルポート(CNP)協議会設置要綱の改訂について(案))

事務局より、徳島小松島港港湾脱炭素化推進協議会設置要綱(案)の説明及び座長を推薦し、承認

また、座長より、副座長を任命し、承認

(議事2-2: 第1回 徳島小松島港港湾脱炭素化推進協議会)

徳島県県土整備部運輸政策課より、徳島小松島港港湾脱炭素化推進計画の概要、アンケート・ヒアリング結果等を用いた2013年度及び2021年度のCO₂排出量の推計結果、徳島小松島港港湾脱炭素化推進計画の目標、水素・アンモニアの需要量推計及び供給目標等について説明

また、今後のスケジュールとして令和5年度中に今回を除き2回協議会を開催し、その後、徳島小松島港港湾脱炭素化推進計画を策定・公表する旨を説明

<座長>

2030年にはCO₂排出量が半減というKPIになっているが、そこには更なる努力が必要であることから、科学技術の進展等いろいろな要素が必要である。

<構成員1>

水素・アンモニアの供給目標において、企業としてどういうふうなことに取り組んでいってほしい、あるいはこういうふうな政策を進めていくかの方針等について、いろいろ情報提供いただきますようお願いいたします。

<座長>

水素・アンモニアの供給には、貯蔵タンクが必要となる。徳島小松島港だけではなく、全国的に考えてやらないと、大きな設備等々はなかなか達成できないのではないかと考えられる。

<構成員 2>

企業様の今後のCO₂を削減する具体的な取組をご提示いただいて、企業名までを含めて、何年間にやっていくということを計画の中に記載していく必要がある。現段階で取組の確約がないものについては、長期目標として企業名が入らない形で記載させていただく。

また、産官学民が同じ方向を向いて取り組んでいく必要がある。

(議事 2-3 : 港湾脱炭素化推進計画の概要及び四国における取組状況)

四国地方整備局より、「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアルの内容や作成手順、CNP形成に向けた四国における取組状況について説明、CNP認証(コンテナターミナル)制度案の概要について説明

<座長>

地域的ないろいろな状況に応じて、この大きな方針の中で進めていくことになると考えられる。

<構成員 3>

外航船舶も水素・アンモニアだけでなく、メタノールのような燃料の船舶を推進するためにも、燃料供給の課題がでてくるのではないかと懸念がある。

また、小型船舶の電力化やコンテナ型バッテリー等の中期的な段階の取組もできるのではないかと考えている。

<構成員 4>

グリーン化、脱炭素に向けて様々な手法や技術開発が進んでいる中で、それぞれに一長一短ある。今は、それらを上手く組み合わせて脱炭素化を進めていく段階にある。いろいろな特性を見極めながら、うまくベストミックスさせ、模索しながら進めていきたいと考えている。

<構成員 2>

脱炭素の技術というのは日進月歩の状況なので、今年度末までに計画を作ることに對して、どこまで書き込めるかということは、非常に難しい部分があると思われる。この計画は、3月までに作成される計画ではあるが、継続的に見直していくことが重要である。

<座長>

技術と社会情勢にかなり影響される分野であるため、技術の進歩により計画を見直して、評価し公表するようなPDCAサイクルを回していく必要がある。

以上